

水戸の城下町地図作ろう 試作版使い歴史遺産巡り

江戸時代の水戸城周辺地図と現代の地図を合わせた「水戸の城下町マップ」を作ろうと、茨城大図書館と水戸商工会議所は21日、マップの試作版を利用して市



堀があった場所で解説する小野寺教授(中央)＝水戸市天王町で

民と一緒に歴史遺産巡りを行った。市民の意見を反映した完成版は、4月以降、小中学校や観光客向けに発行する予定。

城下町マップ作りは、同大教員地域連携プロジェクトの一環で、試作版は、同図書館副館長の小野寺淳教授(53)らが半年かけて作った。江戸時代に水戸藩士酒井喜熙が製作した「水戸地

図」(徳川博物館所蔵)をもとに、当時の武家地や町人地、堀、千波湖などが現代の地図上のどこに位置するかわかるようになった。

20～21日に開いた歴史遺産巡りには水戸市内や周辺の地域からのべ30人の有志が参加。参加者は、写真を撮影したり、小野寺教授に熱心に質問をしたりしていた。